

篠 議 第 2 9 2 号
平 成 2 7 年 9 月 9 日

篠山市長 酒 井 隆 明 様

篠山市議会議長 林 茂

少子化・定住促進対策について（申し入れ）

標記の件について、篠山市議会少子化・定住促進対策特別委員会にて、慎重に審議した結果、下記のとおり申し入れる。

記

1. 人口シミュレーション「地区別カルテ」導入の検討を

少子化・定住促進対策特別委員会において、地方創生に向けた地域版総合戦略、その中でも人口ビジョンについて、数多くの議論を重ねてきた。その結果、地域それぞれの人口ビジョンを示すことで、住民自身が人口問題を身近に感じることが大切であるとの考えに至った。こうした見解を踏まえ、地域の住民が主体的に定住人口について考えるシステムを取り入れている島根県を視察した。

島根県においては、旧小学校区を基本単位として、年代毎の人口動態等を示すとともに、地域の定住人口の目標を入力することで、地域の将来人口がどのように変わっていくかを見ることができる人口シミュレーション機能を付加した「しまねの郷づくりカルテ」を作成され、一定の効果をあげていることを確認した。

本市における人口ビジョンの達成に向けても、行政の取り組みだけでは限界がある中、こうした「地区別カルテ」を導入することにより、住民が地域の状況を正しく把握、理解でき、自らの地域の将来の姿を考える意識を醸成することにつながる。地方創生に向けて、地域の主体的な行動につなげていくためにも、「地区別カルテ」の導入を検討されたい。

2. 子どもと子育て世代の「居場所づくり」の施策展開を

少子化・定住促進対策特別委員会で実施した市内の子育てサークルへのヒアリング調査において、公園や子育てふれあいセンターへの要望など、子どもと子育て世代の「居場所」に関し、一定のニーズがあることを確認した。

こうした居場所づくりについては、対象者や目的を明確にした上での施策展開が必要である。篠山には既存の魅力ある施設もあり、チルドレンズミュージアムや丹波並木道中央公園等を活かしながら、行政や保育、教育関係者だけでなく、官・民が連携して、「集える」仕組み、仕掛けを意識した施策を展開されたい。